

公益社団法人日本地震工学会 第31回理事会議事録

A. 日時：2017年12月8日（金） 15時00分～18時00分

B. 場所：建築会館 304会議室

C. 出席者：（会長）福和伸夫，（副会長）木全宏之，塩原 等，清野純史
（担当理事）田中宏司，佐藤吉之，長島一郎，岩本浩祐，末富岩雄，田村修次，入江さやか，山口 亮，平田京子，秋山充良，中尾吉宏
（監事）飯場正紀、當麻純一
欠席：（担当理事）高橋章浩，宮腰淳一
オブザーバ出席：小松康典事務局長，戸田事務局員

D. 議題および提出資料：

報告事項

- | | |
|---|----------|
| 1) 第30回理事会議事録（案）の確認（佐藤理事） | 資料 31-01 |
| 2) 第12回正副会長会議報告（田中理事） | 資料 31-02 |
| 3) 会務報告（田中理事） | 資料 31-03 |
| 4) 会計報告（長島理事・岩本理事） | 資料 31-04 |
| 5) 年次大会（大会-2017）収支報告等（秋山理事） | 資料 31-05 |
| 6) 広報部会からの報告 | 資料 31-06 |
| 7) 情報コミュニケーション委員会からの報告（山口理事） | 資料 31-07 |
| 8) 会誌編集委員会からの報告（平田理事） | 資料 31-08 |
| 9) 論文集編集委員会からの報告（末富理事） | 資料 31-09 |
| 10) 事業企画委員会からの報告（宮腰理事・中尾理事） | 資料 31-10 |
| 11) 事業企画委員会（JEES）からの報告（高橋理事） | 資料 31-11 |
| 12) 事業企画委員会（国際、地震災害対応）からの報告（田村理事） | 資料 31-12 |
| 13) 「強震動評価のための表層地盤モデル化手法」講習会（11/1）
実施報告（清野副会長） | 資料 31-13 |
| 14) 出張授業の報告（長島理事・岩本理事） | 資料 31-14 |

議案

- | | |
|---------------------------------|----------|
| 第1号 入退会者（佐藤理事・長島理事） | 資料 31-15 |
| 第2号 共催・後援・協賛等（田中理事） | 資料 31-16 |
| 第3号 17WCEE 運営規程案について（田中理事） | 資料 31-17 |
| 第4号 17WCEE 組織委員会名簿、構成について（田中理事） | 資料 31-18 |
| 第5号 スペシャルアドバイザーの募集について（田中理事） | 資料 31-19 |

懇談事項

- | | |
|-------------------------------------|----------|
| 1) 功績賞、功労賞の候補者について（福和会長） | 資料 31-20 |
| 2) 震災対策技術展横浜・ブース展示について（田中理事） | 資料 31-21 |
| 3) 2017年度活動報告，2018年度活動計画・予算案の作成について | 資料 31-22 |

4) 次期理事会の体制 (田中理事)

資料 31-23

報告事項

1) 第 30 回理事会議事録 (案) 確認

- ・ 佐藤理事より資料 31-01 に基づいて第 30 回理事会議事録 (案) の説明が行われた。
- ・ P.2、P.3 に誤字があり、これらを修正することで、議事録が承認された。

2) 第 12 回正副会長会議報告 (田中理事)

- ・ 田中理事より資料 31-02 に基づいて、11/27 に実施した第 12 回正副会長会議の内容の説明が行われた。
- ・ P.1 の「特別事業積立金の削減のため」を「繰越金の削減のため」に訂正する。

3) 会務報告 (田中理事)

- ・ 田中理事より資料 31-03 に基づいて会務報告の説明が行われた。
- ・ 各部会、委員会で、これら以外に行った活動があれば、総務理事まで連絡する。

4) 会計報告 (長島理事、岩本理事)

- ・ 長島理事より資料 31-04 に基づいて平成 29 年度予算と実績(平成 29 年 4 月 1 日～11 月 30 日)、および今年度見込みについての説明が行われ、異議なく承認された。
- ・ 今年度予算は約 200 万円の赤字となっているが、今年度末では約 30 万円の赤字を見込んでおり、赤字幅は減少した。新たに企画した南海地震シンポジウムの事業企画による収入見込み等が貢献している。
- ・ 通期見通しにおいて、公益事業としては赤字、法人会計で黒字、全体的として黒字となっており、健全と評価できる。
- ・ 資料 30-04-1 の収支表と資料 30-04-2 の正味財産計算書で一致しない部分があるのはなぜか。
→前者はキャッシュベースのみの評価、後者は金額換算できる資産を全て評価している。

5) 年次大会 (大会-2017) 収支報告等

- ・ 秋山理事から資料 31-05 に基づいて、今年度の大会の実施報告が行われた。
- ・ 技術フェア出展が 70 件あり、また中埜先生の尽力による会場費の低減のお蔭で、約 70 万円の黒字となった。
- ・ ポスターセッションの時間をより長く確保した方が良いという意見が実行委員会でも出されており、今後引き継いでいく。また今回についてはポスターセッションのスペースが狭く、やや議論がしにくかったという意見が出された。
- ・ 優秀発表者の審査スケジュールがタイトである。表彰は大会期間中でなくても良いかもしれないという意見も出された。

6) 広報部会からの報告 (入江理事)

- ・ 資料 31-06 に基づいて説明が行われた。資料の 1 行目、会誌 No.33 は会誌 No.32 に訂正する。第 30 回理事会で提案して、承認された地震工学会誌の記者クラブへの配布、および日本地震工学会大会 2017 年のプレスリリースを実施した。
- ・ プレスリリースの効果として、大会期間中に朝日、日刊工業、毎日、日本経済の各紙の記者あるいは編集委員が取材 (聴講) に訪れた。昨年の大会 (高知) とは異なり、一般向けの講演が無かったのにもかかわらず、このような取材があったのは良い効果である。
- ・ 熊本地震記録の問題については、大阪大学で本調査委員会を立ち上げ、来年 4 月末を目処に報

告を行うことになっている。それまでは大きな動きはないと予想されるが、動向について注意していく。

- ・ 次回から、会誌の配布先として、文部科学省記者クラブを加えることにする。地震本部に対する本学会のPR効果などが期待できる。会誌の残部は配布に十分な位確保されている。

7) 情報コミュニケーション委員会からの報告（山口理事）

- ・ 山口理事より資料 31-07 に基づいて前回理事会以降の活動について説明が行われた。JAEE News No.319, No.30 を発行し、学会ウェブサイトのコンテンツのメンテナンスを実施した。また JAEE Newsletter 第 19 号の作成を進めている。

8) 会誌編集委員会からの報告（平田理事）

- ・ 平田理事より資料 31-08 に基づいて会誌 No.33(2 月末発刊予定)の構成、準備状況について説明が行われた。進捗については順調である。
- ・ 編集委員一名の辞退があり、補充が必要になった。木全副会長から大野卓志氏（高圧ガス保安協会）の推薦があり、12/12 の編集委員会で承認予定となっている。
- ・ 会誌投稿要領の改定案について説明が行われた。前回の理事会では、依頼原稿については執筆者を会員に限定しないことを追記することが承認された。前回の理事会での意見を反映して、資料 31-08-2 に示すように、「2. 投稿資格」に「但し、依頼原稿についてはこの限りではない」という記述を加えることにし、承認された。
- ・ 会員外に依頼する場合には原稿料を支払う方向で考える。「6.掲載料等」に「なお、依頼原稿については**万円を支払う。」などの記述を加える。
- ・ 前回の理事会で「依頼原稿執筆要領」があるのかどうかについての質問があった。調べた結果、執筆要領は存在し、都度、著者に提示していることを確認した。
- ・ 会誌および News letter の位置付けについて検討した。会誌は特定のテーマについてしっかりした内容を伝える。News Letter はタイムリーな情報を伝えるとともに、非会員も対象に加えて、内容を易しく伝えることも目的としている。
- ・ 世の中は印刷物型ではなく、イベント型に移行しているが、考慮すべき点であるが、イベント型は参加者、地域に限られ、会員に公平ではないとの意見が出された。
- ・ 会誌については、編集委員の負担が大きいので、継続性を考えると 2 回に減らすことも考えられる。その場合 NL を 4 回にすれば、会員への説明はしやすいが、NL 作成の負担が増大する。また、会誌 2 回、NL4 回への変更ならば、会員へのアンケートは不要だが、会誌を 2 回に減らすだけならば、意見を聴く必要がある。
- ・ 設立当初「電腦学会」を目指したが、印刷物が無いと会員はメリットを感じにくいため、学会誌を送付することにした経緯がある。現在も印刷物を期待する会員が多いと予想される。
- ・ 今回の意見を受けて、見直し方針について平田理事と山口理事に検討していただき、ある程度まとまったら理事会で改めて提案していただく。会員外についての原稿料の支払いについても考えていただく。
- ・ この見直しについては、再来年度に変更することを前提に議論していく。

9) 論文集編集委員会からの報告（末富理事）

末富理事より資料 31-09 に基づいて、2017 年 11 月号、12 月号（英文）を発行し、2017 年は 70 編程度の論文を掲載したことが報告された。における掲載論文数の報告、熊本地震の臨時観測点記録の問題への対応状況についての報告が行われた。

- ・ 熊本地震記録を扱った論文 1 編についての差替えを完了した。
- ・ J-STAGE 登録の論文情報に査読の有/無が欠けていたことが判明した。費用は 2 万円を要するが、データ追加を依頼中である。

- 論文賞については3編を推薦し、論文奨励賞については編集委員による投票を開始したことが報告された。

10) 企画委員会（企画）からの報告（中尾理事）

- 中尾理事より資料31-10に基づいて、震災予防協会講演会の企画案について説明が行われた。今回は、関東地震、兵庫県南部地震、東北地方太平洋沖地震の震災復興をテーマとしている。
- チラシは作成するのか
→チラシを作るのならば、横浜市の記者クラブに配布すると、効果があると考えられる。
→内容が決まった段階で、プレスリリース案を作成して、神奈川県、横浜市の記者クラブに配布する。広報と事業企画で今後相談する。
- 南海トラフ地震シンポジウムの企画案、進捗情報について説明が行われた。講師案も考えており、現在交渉中である。250名を見込んでいるが、資料では200名参加を想定して、予算案を作成している。
- 参加費5000円に見合う資料を作るためには時間を要するので、早く講師を決めた方がよい。特に気象庁からの講師については、早目に決めてフィックスする必要がある。
- シンポジウムの企画についてマニュアルがあったのではないかと。
→現在、登録されている資料にはないが、準備と並行して確認する。
- 会員、非会員で参加費の差を設けた方がよい。会費は現状の案が上限と考えられ、会員に対する低減を検討する。
→会員、非会員の参加費についてもマニュアル等に記載があったのではないかと。
→これまでの資料については記載がない。
- 南海トラフシンポジウムについて、メールニュース用の記事を出していただく。年度末開催なので、12月中にはアナウンスできるようにした方がよい。
- 2月に予定しているE-ディフェンス見学会の企画についての説明が行われた。SIPで土木研究所と防災科研が行っている液状化地盤における橋梁基礎に関する実験の見学を行う。日時については土木研究所と調整中である。
→同行する理事の交通費が入っていないが、計上した方がよいのではないかと。参加費が上がることにはなるが、本来そうすべきである。震災対策技術展、南海トラフシンポジウムにおける委員の交通費についてもそれぞれの予算で計上すべきであるとの意見が出された。
→E-ディフェンスについては個人で行く交通費を考えたら、もう少し上げて問題はない。
- 事業企画全体について、資料31-4-3では150万円の赤字になっているが、H29年度予算では35万円になっている。なぜ大きく修正したのか。
→予算策定時には、南海トラフ地震は当初計画されていなかったためである。

11) 事業企画委員会（JEES）からの報告

- 高橋理事作成の資料31-11に基づき、代理で田中理事によりJEESの準備状況についての説明が行われた。12/1に第3回運営委員会が開催され、準備が順調に進んでいることが報告された。
- 審議事項として、会場費の支払いが挙げられた。会場費（約300万円）を来年度早々に支払うことになっており、JEES積立金から支出することが承認された。
- また予算についても審議を行った。現在のところ赤字決算が見込まれている。今回は会場費が高いことが原因である。前回は赤字予算で動いていたが、最終的には収支バランスした。今回も、ある程度の赤字前提の予算で準備を進めることについては、概ね合意が得られた。
- 赤字額については詳細が分からないので、今後予算書を提出していただき、メール審議を行っ

てから、最終的に承認することにする。

- ・できるだけ赤字は減らす努力を減らすようにした方がよい。資料 31-11 に JEES 設立金の低減についての記載があるが、これについては削除した方がよい。

12) 事業企画委員会（国際、地震災害対応）からの報告

- ・ 建築学会のメキシコ地震の調査団に、地震工学会から 10 万円の補助を出す案が提出され、審議が行われた。
 - 10 万円の使途はなにか。
 - 10 万円という額が指定されたのではない。使途としては旅費、通信費等が考えられる。
 - 具体的な使途の明記がないと審議しにくい。
- ・ 地震工学会派遣の調査員への経費補助とすれば、良いのではないか。また金額は「約 10 万円」としておいた方がよい。また、どのような手続きが良いのか、すなわち建築学会に振り込むのか、個人からの領収書に基づいて処理するのかについて、田村理事と事務局とで検討する。
- ・ 2017 年 9 月 19 日メキシコ中部の地震について、東京大 Y.A. Hernandez 先生から現地機関による調査報告の英訳資料の申し出があり、地震災害対応委員会でメール審議を得て、学会 web に掲載をした。当資料の著作権について問題が無いことを Hernandez 先生に確認した。

13) 「強震動評価のための表層地盤モデル化手法」講習会（11/1）実施報告

- ・ 清野副会長から資料 31-13 に基づいて当講習会の概要、収支に関する報告が行われた。
- ・ 第 6 回 ESG について東委員からメールで連絡があり、清野副会長から説明が行われた。LOC の設置については、前回理事会で理事会の下に直接設置することを認めた。LOC はまだ設置されていないが、次回以降の理事会でその予算等について説明していただくことにする。

14) 出張授業の報告

- ・ 資料 31-15 に基づき、長島理事から 11 月 26 日に実施した出張講座、大田区「おた住まいづくりフェア」についての説明が行われた。
- ・ 現在、出前講座に関する web 上の掲示は中止しているが、東京都建築士事務所協会大田支部から依頼があり、スペシャルアドバイザーの岩楯徹広首都大学東京名誉教授に講師をお願いして実施した。

議 案

第 1 号 入退会者

- ・ 佐藤理事から資料 31-15 に基づいて入退会者の報告がなされた。正会員の退会者 2 名、学生会員から正会員の転格が 1 名あり、異議なく議決された。

第 2 号 共催・後援・協賛等

- ・ 田中理事より資料 31-16 に基づいて、後援 1 件、協賛 1 件の名義使用依頼についての説明が行われ、異議なく議決された。

第 3 号 17WCEE 運営規程案について

- ・ 田中理事により資料 31-17 に基づいて、17WCEE の運営企画案について説明が行われ、異議なく議決された。内容は前回理事会時のものから変わっておらず、前回理事会の時点で承認されたこととする。

第4号 17WCEE 組織委員会名簿、構成について

- ・田中理事により資料 31-18 に基づいて、17WCEE の組織委員会名簿について説明が行われ、異議なく議決された。これについても内容は前回理事会時のものから変わっておらず、前回理事会の時点で承認されたこととする。

第5号 スペシャルアドバイザーの募集について

- ・田中理事より資料 31-19 に基づいて、説明が行われた。資料のような内容でメール送付、JAEE メールニュースへの掲載を行う予定である。
- ・依頼側は 30,000 円+交通費を支払い、講師には講演料 25,000 円と交通費をお渡しする。学会では事務局経費として 5,000 円を受け取る。依頼側からの支払いは事務局に対して行い、事務局で上記のような仕分け作業を行う。なお事務局経費についてはメール文に記す必要はなく、今後、改定して公開する web 上での公開講座/出前講座のページで説明すればよい。
- ・スペシャルアドバイザーの制度と公開講座/出前講座の関係について説明を加えるようにする。
- ・上記のような条件で、本件が承認された。

懇談事項

1) 功績賞、功労賞の候補者について

- ・資料 31-20 に基づいて、福和会長、田中理事から、各賞の選考担当およびスケジュールについて説明が行われた。
- ・功績賞、功労賞については、12 月～1 月に理事から候補者を挙げていただき、3/2 の正副会長会議で審議して、3/9 理事会で最終決定、5/25 の総会で表彰する。
- ・公益法人として、対象者・団体を広く捉えて、選考してほしい。

2) 震災対策技術展横浜・ブース展示について

- ・資料 31-21 に基づいて、田中理事から説明が行われた。
- ・当日の説明担当として、期間中は常にブース内に説明者を待機させた方がよい。理事で都合がつく方は、各 2 時間位を目安として、分担をお願いしたい。可能な方の調査と割り振りは事業企画委員会に願います。
- ・南海トラフシンポジウムの案内などもここで行うと効果的である。

3) 2017 年度活動報告、2018 年度活動計画・予算案の作成について

- ・資料 31-22 に基づいて、田中理事から説明、各資料の書式、作成スケジュールの説明が行われた。
- ・1 月中に各理事、各委員会で作成、提出していただき、2 月に取りまとめる。
- ・次年度事業計画、予算案については、3 月の正副会長で確認・意見出しを行い、3/9 の次回理事会で承認、3 月末に内閣府に提出する。
- ・今年度活動、決算報告については、3 月の正副会長で確認・意見出しを行い、3/9 の次回理事会で承認、その後監査を得て、4/16 理事会と 5/25 社員総会で承認となる。

4) 次期理事会の体制について

- ・田中理事から資料 31-23 に基づいて、説明が行われた。理事の人数については、現状の 17 名+WCEE 担当の計 18 名の提案があり、この人数で進めていくことを確認した。
- ・広報については、新たな活動を増やしつつあるので、入江理事に次期も継続できないかどうかについて検討をいただく。
- ・会計・会員理事については、例年選挙管理委員会委員長にお願いすることになっている。

- ・3/9の理事会では概ね候補者の名前が挙がっているようにする。

次回予定：平成30年3月9日（金）16時-19時

以上 この議事録が正確であることを証します。

平成29年12月8日

議長 福和 伸夫

監事 飯場 正紀

監事 當麻 純一